

神戸新聞NEXT

🕒 2017/1/28 16:00 神戸新聞NEXT

ユネスコ無形遺産選外 播州の祭り、権威は無 用？



「灘のけんか祭り」の宵宮。きらびやかに電飾が施された屋台が勇壮に練る = 2016年10月14日、姫路市白浜町、松原八幡神社（撮影・山崎竜）



「なんでなん？」。播州人の突っ込みが聞こえてきそう。国連教育科学文化機関（ユネスコ）が昨年12月、無形文化遺産に登録した「山・鉾（ほこ）・屋台行事」のリストに、全国有数の「灘のけんか祭り」に代表される兵庫県姫路市内の行事は含まれなかった。祭り文化の象徴でもある屋台は市民の誇りなのだが…。登録された18府県33件の祭礼と何が違うのか。調べてみた。（伊田雄馬）

毎年10月14、15日に催される

松原八幡神社（姫路市白浜町）の秋季例大祭「灘のけんか祭り」など、播磨の祭りには屋台が欠かせない。絢爛（けんらん）豪華な装飾や彫刻が施され、氏子らによる屋台の差し上げは祭りの華だ。

それだけに、祭りに親しんできた会社員（23）は「なんで選ばれへんの？」。JR姫路駅前で居酒屋を営む男性（28）は「遠来の観客もいる地元の誇りなのに」と落胆する。市職員の間でも理由を問う声があった。

33件の推薦リストを作成した文化庁の担当者に聞いた。

「無形文化遺産は伝統的祭礼や舞踊

などを消失の危機から救うのが目的。

33件はいずれも国が保護や継承に責任を持つ国重要無形民俗文化財で、姫路の祭りは入っていない」

確かに、けんか祭りは兵庫県と姫路市の文化財指定にとどまる。では、国指定の条件とは何なのか。

「一概には言えないが、県や市から祭りの変遷などについて、十分な報告書が提出されることが必要だ」

ここで疑問が湧く。市は国指定を目指しているのか。市教育委員会文化財課の主任文化財専門員の宇那木（うなき）隆司さんは「目指したいが、難しい」という。

宇那木さんによると、けんか祭りの起源は鎌倉時代の儀式「放生会（ほうじょうえ）」までさかのぼる。「当時は武士による流鏝馬（やぶさめ）などが中心だった。室町、江戸時代に大きく姿を変え、大屋台を練り合わせる現在の姿になったのは戦後以降と考えられる」

祭りの変遷が分かる資料は乏しく、学術研究も不十分という。

そもそも、国やユネスコに指定や登録されると、どんなメリットがあるのか。播磨学研究所（同市）の小栗栖（おぐりす）健治副所長は「良いことばかりではない」とみる。

「祭りは本来、地域で暮らす人々の思いと共に形を変えるもの。国指定になれば、現在の形で次世代へ残すことが重視され、自由に発展する可能性をつぶしてしまおう」と指摘。「海外にアピールする手段は他にもある。ユネスコのブランドに頼るよりも、地域に愛される祭りをつくるのが一番では」

変化を続ける、その姿こそが姫路の祭り。納得しました。

■ 「だんじり祭」岸和田も悩む

ユネスコの無形文化遺産登録は国際機関の「お墨付き」となり、観光を後押しする効果が期待される。

「長浜曳山（ひきやま）祭」の地元、滋賀県長浜市は登録を受け、広報紙の号外を発行し、市のウェブサイト上でもPRする。担当者は「見に来てくれる人が増えそう」と声を弾ませる。

登録までに苦労が多かったのは、前提条件となる国重要無形民俗文化財の指定だったという。「国指定の方が制約が多い。曳山の修繕だけでも専門家が委員会を開き、方法などを決める」（同市）

「だんじり祭」で有名な大阪府岸和田市。街中を駆け巡る勇壮な祭りは今回、リストに含まれなかった。だんじりを繰り出す町が約80あり、それぞ

れの歴史や運営方針に違いがある点は姫路と重なる。

無形文化遺産は制度上、追加登録が可能だが、岸和田市の担当者は「国の指定を受けるかどうか、現状は意見が分かれている。登録にどう取り組むか、祭礼関係者らと意見交換したい」とする。

兵庫県内では「山・鉾（ほこ）・屋台行事」の国重文はない。県教育委員会は4月以降、実態調査に乗り出し、国指定などに向けた下地づくりを進める。